

## 広畑第二地区

別紙MAP  
C-7・8



## 京見会館

昭和16年に広畑製鐵所の迎賓館として建設。大型客船のキャビン模して造られたというリビングルームや洋風のダイニングルームなど和洋室が配置されている。昭和51年5月19日皇太子ご夫妻(現天皇、皇后両陛下)がご宿泊された。



etc

## 図書館広畑分館

平成6年に開館。敷地面積1,780㎡、建築面積1,409㎡、分館延床面積3,871㎡、広畑トレーニングルーム980㎡、鉄筋コンクリート造り。



etc

## 郡境石

汐入川の改修時、小坂橋付近の川で発見された。2枚の長方形の板石からなり、先端部をV字状にくぼめ郡境を見通せるようになっている。石には「郡境」と大きく彫られ、下に「飾磨郡」「揖保郡」と刻まれている。



## 西保健センター

移転の際に、新たに保健福祉サービスセンターと障害者デイサービスセンターを併設。新施設は平成16年から業務を開始。



etc

## 御用米蔵跡

室津道の南、汐入川の東堤に建てられた2棟の土蔵。明治維新まで飾磨郡内における一橋領の年貢をここに納めた。舟で河口まで運び、大型船に積み替えて大坂難波や江戸浅草へ回送された。



## 広土地区画整理完了記念

広土地区画整理事業の完成を祝って記念碑が建てられた。表碑には「姫路都市計画事業 広土地区画整理完了記念」と銘が記されている。



etc

## 菅原神社

菅原道真を祀る。道真が九州に左遷される途中、天候が悪くなり船が進まず、英賀の田井ヶ浜に上陸した。この時、自作の木像が「我久(高浜の浜辺の字名)」という所に流れ着いていたのを祀ったと伝わる。



## 広畑第二公民館

旧西保健センターの跡地に、単独館として、鉄筋コンクリート構造2階建て建設。山陽電鉄網干線の天満駅より、歌野橋線の県道に出てから東に徒歩8分の所にある。



etc

## 菅原神社の力石

菅原神社の境内に3個の力石が保管されている。江戸時代から昭和初期まで津々浦々の集落で「力石」を用いたくらべが行われていた。



## 室津道

姫路城下より姫路藩の飛地で、古代より瀬戸内海の海上交通の重要な海駅として繁栄した室津に至る街道。小坂にはその姿がよく残っている。



1 地域夢プランの歩み  
～はじまりからこれまで～

2 地域夢プランのかたち  
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとらえ方  
～検証と未来へのアプローチ～  
(1) 「姫路市地域夢プランの構築」

3 地域夢プランのとらえ方  
～検証と未来へのアプローチ～  
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト  
～地区からの情報発信～  
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト  
～地区からの情報発信～  
(2) 地域資源一覧



## 蒲田神社



祭神の応神天皇が播磨を巡幸されたことがあり、後に人々のご駐輦の跡に一字を建て聖徳を偲んだことが神社の起源とされる。貞享年間(1684頃)よりの絵馬が多く奉納されている。八幡の名称は、祭神の別名八幡大神より引用している。



## 高畑地蔵尊「出逢地蔵」



昔の地蔵堂は今の場所から南側にあった。松の太木があり、西国へ通じる街道の目印になっていた。「出逢いの松」と呼ばれていたが、昭和20年頃枯死した。また境内には戦国時代に戦場となったと思われ、戦死した武士の墓、五輪塔が多くある。



## 慶雲山満乗寺推定地



慶雲山満乗寺は書写山圓教寺の別院であったが、戦国時代の兵乱で消滅したと伝わる。現在は則直字上の坊の字名があって、当時の本尊と言われている石仏が専修寺境内にある。



## 稚児ヶ淵伝説の地



かつては、夢前川が蒲田を貫いて流れ、東の山並みに迫る所は深い淵になっていた、通称「ちがら淵」「稚児ヶ淵」と言う。蒲田にあった長谷山蒲田寺の僧が菅原白屋村(西蒲田)の娘と身を投げた悲しい伝説から、「稚児ヶ淵」と呼ばれた。



## 才の地蔵尊



諸国巡拝の行者玄達が、天保2年(1831)から3年かけて建立。高さは3mの大型の地蔵菩薩である。石工は塩市村(現高砂市)庫本伊兵衛。毎年8月24日には地蔵盆が盛大に行われている。



## 西蒲田天満神社



永享年間(1429～41)祖神菅公を祀ったのが起源とされる。境内にはご神木である楠があり、市の保存樹に指定されている。明治21年菅野孫次郎奉納の算額絵馬がある。昭和60年に社殿再建。



## 下野古墳群



この地には数十基の古墳群がある。後期古墳時代(6世紀)のもので、中には石室内に石棺が残っているものもある。また土の盛り上がった場所も数か所あり崩壊した古墳と思われる。



## 室津道道標・高札場跡



室津道は姫路城下の山陽道より分岐、町の坪～才～小坂を経てたつの市室津までの道を指す。天保9年(1838)建立の道標があり「左あばし、むろつ・右たつの、びぜん」と記される。また、旧屋台蔵付近には、高札場があったようだ。



## 大庄屋飯塚家



蒲田組大庄屋の飯塚家は、天文15年(1546)飯塚六左衛門が余部庄左右両代官を務め、秀吉の中国攻めや英賀城攻略にも加担した。江戸時代初期から明治維新まで大庄屋を勤めた。土塀と石垣がマッチして美しい景観を見せている。



## 夢前川洪水防護堤防



暴れ川として民衆に恐れられた夢前川。洪水より村を守った堤防が各所にあったが、校区内ではここにだけ残っている。



1 地域夢プランの歩み  
～はじまりからこれまで～

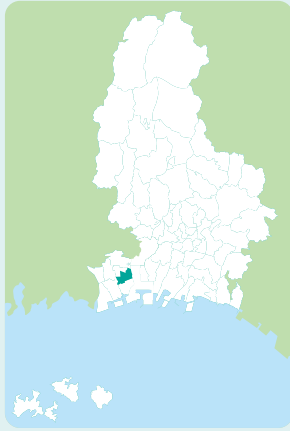
2 地域夢プランのかたち  
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとらえ方  
～検証と未来へのアプローチ～  
(1) 姫路市地域夢プランの概要

3 地域夢プランのとらえ方  
～検証と未来へのアプローチ～  
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト  
～地区からの情報発信～  
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト  
～地区からの情報発信～  
(2) 地域資源一覧



- |  |                  |  |            |
|--|------------------|--|------------|
|  | 遺跡・史跡、<br>歴史上の名所 |  | 伝統芸能<br>など |
|  | 神社・仏閣、<br>歴史的建造物 |  | 景勝         |
|  | 歴史上の<br>人物など     |  | 生物・花       |
|  | 祭り<br>伝統行事       |  | 町並み        |
|  | 美術品              |  | etc その他    |

0m 250m 500m

## 蛭子神社



明治6年の記録に、大己貴尊・事代主尊(恵比須神社)394坪と記載がある。村前新田50町歩(現天神町・恵美酒町)が開発された寛永期(1624～1643)ごろには、既に建っていたと考えられる。



## 大悲山仏心寺



明応9年(1500)に細川右京太夫勝元の子孫、細川安右衛門が出家して「了膳」となり開基したと伝わる。宝暦元年(1751)失火により焼失。宝暦8年本堂再建と棟札に墨書が残る。昭和62年に庫裏再建、平成10年に本堂再建。



## 回国地蔵



地蔵の台石に「日本回国」や「享保」の銘文が刻まれており、また、地蔵も同時に奉納されたと思われる前の石燈籠に「享保14年」の年号があることから、1729年に日本廻国の記念として奉納されたと考えられる。



## 等覚山聖安寺



寺伝によると、文明9年(1477)に禅宗等覚寺として順正が開基と伝わる。明応2年(1493)真宗に転宗し、正徳3年(1713)聖安寺に改号。丸亀藩主高豊(備中守)・高矩(佐渡守)三代の位牌を安置する。



## 北向地蔵



明治後年までは旧武大神社境内の西端にあったが、神仏分離令で境内東側の空地に移され、さらに、昭和13年から始まった県道歌野線の道路敷設工事で現在地に移された。昔から北向きで有名。



## 涅槃山仏性寺



永正5年(1508)に、ある村人が日照りから村を救うために原池の堰を切り、その罪に問われたが、この話を伝え聞いた仏光寺の門主により罪が許された。その後、この村人は上人に帰依し、草庵を建設し、今日に至る。



## 神明神社



明治6年の記録に、天照大神社128坪と記載がある。村前新田50町歩(現天神町・恵美酒町)が開発された寛永期(1624～1643)ごろには、既に建っていたと考えられる。神明とは天照大神の特称である。



## 武大神社(長松)



元禄年間に荒神社を長松村字惣利から現在地に移し、明治14年に本殿・拜殿を新築。昭和天皇の御大典記念に本殿・拜殿を拡張し、広峯神社からご祭神として素戔嗚尊の神を勧請し、武大神社に改称。



## 前大津公民館跡地 (旧揖保郡大津村役場)



昭和37年の大津支所廃止に伴い市立大津公民館となる。以降、現公民館を設立するまで謡曲、華道並びに婦人会等の活動拠点となる。初代館長は立川栄之助氏。跡地の一部は現網干消防団大津分団の拠点。



## 六地蔵



汐入川公園の東側に数基の墓石と並んで六地蔵がある。享保14年(1729)の銘があり、市内では古い方である。保存樹「エノキ」のそばに行む。



1 地域夢プランの歩み  
～はじまりからこれまで～

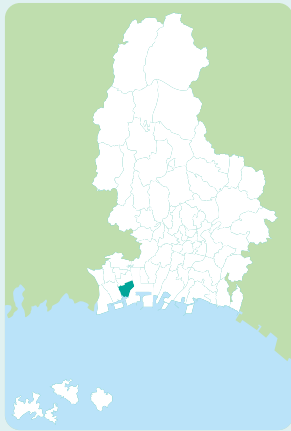
2 地域夢プランのかたち  
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとらえ方  
～検証と未来へのアプローチ～  
(1) 「姫路市地域夢プラン」の概要

3 地域夢プランのとらえ方  
～検証と未来へのアプローチ～  
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト  
～地区からの情報発信～  
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト  
～地区からの情報発信～  
(2) 地域資源一覧



れんこんづくり(勸兵衛) ※



汐入川井堰・門扉変遷の碑

汐入川

山陽電鉄網干線



跳橋構造式  
大吉橋跡 記念碑

平松駅

250

吉美村船溜港跡地

君浦由来記(君ヶ浜公園内)

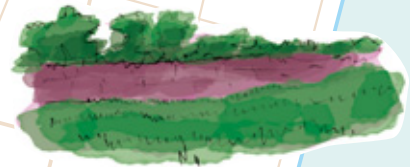
●南大津小学校

西汐入川

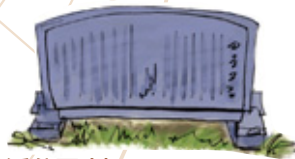
林田藩船奉行所  
御茶室 藩蔵屋敷跡地

大津村道路元標

大津茂川

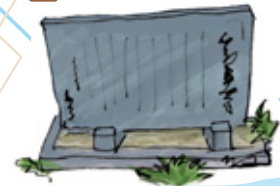


潮止め(勸兵衛)



前新田跡碑

勸兵衛新田大手囲堤碑



- |                  |            |
|------------------|------------|
| 遺跡・史跡、<br>歴史上の名所 | 伝統芸能<br>など |
| 神社・仏閣、<br>歴史的建造物 | 景勝         |
| 歴史上の<br>人物など     | 生物・花       |
| 祭り<br>伝統行事       | 町並み        |
| 美術品              | etc その他    |

0m 500m 1km

## 大津村道路元標

大正8年、県により発せられた、県内の1町村に1個の道路元標を石碑として建立せよとの布達を受け、大正9年に、吉美村西宅地848番地の南道路大津1号の起点に大津村道路元標が建立された。



## 潮止め(勸兵衛)

新田開発にあたり、勸兵衛・官次父子は、従来の土堤と違い大量の石を積み重ねる石垣堤を造った。石は家島の石や天満村の古塩濱跡の石、吉美村の古塩濱跡の石も使われた。その後、近郷や他領から多くの人々が参加し、新田開発は成功した。



## 勸兵衛新田大手囲堤碑

天保13年(1842)に龍野藩主脇坂淡路守が幕府の命を受け、則直村の三木勸兵衛に大津茂川河口の干拓を命じた。勸兵衛は弘化元年に潮止めに成功し、嘉永2年稲黍を試作、同7年に本検地が行われた。勸兵衛を称えて石碑が建てられた。



## 跳橋構造式 大吉橋跡 記念碑

吉美村と大江島村を結ぶ大吉橋は、帆船や高瀬舟が大津茂川を行き来できるよう、橋の東半分を手動ウインチで巻き上げる跳橋として昭和7年(1932)にかけられた。その後、昭和27年(1952)に新しい橋をかけるために取り壊された。



## 吉美村船溜港跡地

吉美は、古くは「君ヶ浜村」といわれ、吉美村船溜港跡地記念碑から西へ70mあまりのところに吉美港があった。林田藩役人が常勤する蔵屋敷や藩主のお茶屋、回船問屋も多くあったが、今はその面影はない。



## 林田藩船奉行所 藩蔵屋敷跡地

吉美村は、林田藩建部家が元和3年(1617)から明治維新まで所領し、藩船奉行所、殿様御茶室、藩蔵屋敷があった。林田川、揖保川、網干川を行き交う高瀬舟が年貢米などを運び、吉美廻船が大坂、九州などへ回船した。



## 御茶室

## 君浦由来記(君ヶ浜公園内)

吉美村には、大津で最も古い地名由来記の君浦由来記が残っている。それによれば吉美村は古名を君浦と言い、明応元年(1492)、君箇濱と改名したと記されている。



## 前新田跡碑

大津茂川河口の干拓は、三木勸兵衛の長男の官次が弟の元三郎と共に引き継いだ。安政4年の暴風で大手囲堤がほとんど崩壊したが、翌年には完全に修復。文久元年に約60町歩の石垣堤防囲の前新田が完成した。これを称えて石碑が建てられた。



## 汐入川井堰・門扉変遷の碑

江戸時代末に勸兵衛新田ができたときに、300m南に大門扉を設けて潮止めし、300m北に井堰を設けて灌漑に利用していた。昭和12年の日本製鐵広畑製鐵所の誘致や昭和49年のポンプ場の建設に伴い、ともに取り壊された。



## れんこんづくり(勸兵衛)

南大津では、水はけの悪い土地を利用して、昔かられんこん栽培が行われている。良質のれんこんは、ほぼ年間を通して収穫され、全国に向け出荷されている。また、小学校ではミニれんこん畑を作り、地域の人々と一緒にれんこんを育てている。



1 地域夢プランの歩み  
～はじまりからこれまで～

2 地域夢プランのかたち  
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとりえ  
～検証と未来へのアプローチ～  
(1) 「姫路市地域夢プランの概要」

3 地域夢プランのとりえ  
～検証と未来へのアプローチ～  
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト  
～地区からの情報発信～  
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト  
～地区からの情報発信～  
(2) 地域資源一覧





## 大津茂川田井潮止め水門



昭和 51 年の大津茂川の激甚災害で大改修が行われ、昭和 53 年「よこせん」に変わる潮止め水門が完成した。標高 2.5 m の農地や住環境防災に、干満時の水門管理が加わった。



## 武大神社



祭神は素戔鳴命・少彦名命・天水分命・国水分命。度重なる大津茂川の洪水で、明治以降 3 度移転、改修した。「水神さん」は他村に見られないもので、字金保の竹藪に鎮座していたものを 2 回目の改修時に合祀した。



## 大津茂川横堰(よこせん)



元禄 13 年(1700) 福井大池の水不足から、池郷を脱退した田井・平松・吉美の 3 カ村は、その代替として大津茂川の最末端の平松に灌漑用井関を造った。用水の確保と潮止め塩害防止の役割をして「よこせん」といわれた。



## 宮田西川



慶長 9 年(1604) の絵図では「裏新田」に川が湾曲して入込み、低湿地が多かった。幕末に低湿地を 6 反まで減らし、浮華(ふけ)周辺はレンコン畑等に利用。浮華両岸は伏流水が湧く。仲吉橋付近では鯉や鮒が多く生息していた。



## 春日神社



祭神は天照大神、天児屋根命、武甕槌命、経津主命で、豊穰・安全・縁結びの神として信仰を集めている。



## 宮田屋台



現在の屋台は 3 代目(平成 5 年製作)。「松に鷹」の紋を前後に、巴を左右に配置。高欄下に播州屋台唯一の若狭塗りを施してある。隅絞りは亀甲模様に鳳凰をあしらひ、屋台に隙間が無いよう引締めている。2 代目は書写の里・美術工芸館で展示。



## 上宮岡・下宮岡・魚戸津・杓田



奈良時代に編纂された「播磨国風土記」に見える地名で、勝原区山戸・熊見、大津区西土井・天満あたりに比定できそうである。「魚戸津」は大津茂川の河口地、「上宮岡」は西土井にある小丘と考えられている。



## 室津道



姫路藩の飛地で、重要な港として栄えた室津に通じる古道。「室街道」「室海道」とも呼ばれる浜街道。室津に停泊した朝鮮通信使の団を応接するために、姫路藩の役人たちが頻りに往来した。



## 田井屋台



現在の屋台は昭和 31 年に製作。擬宝珠に沿うように金の鯉が空に跳ね、屋根の前後の紋は田井をもじって鯛が波に跳ねている。担ぎ棒の吉野杉は無節でたわみがよく、練り子に均等に力がかかるように工夫されている。



## 室津道の田井の土橋



大津茂川に架かる最終橋で、欄干もなく華奢な橋げたに土盛りをしただけの狭い橋だった。魚吹八幡神社秋季例祭には、宮田や大津の各村の屋台が通ったが、屋台の中棒だけで、冷や汗をかきながら軽業師のごとく運行したと伝わる。



1 地域夢プランの歩み  
〜はじまりからこれまで〜

2 地域夢プランのかたち  
〜検証と未来へのアプローチ〜  
「取組の類型化」

3 地域夢プランのとらえ方  
〜検証と未来へのアプローチ〜  
(1) 「姫路市地域夢プランの展開」

3 地域夢プランのとらえ方  
〜検証と未来へのアプローチ〜  
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト  
〜地区からの情報発信〜  
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト  
〜地区からの情報発信〜  
(2) 地域資源一覧



## 網干川



昭和初期の網干川は、機帆船と呼ばれる焼き玉エンジンと起重機用マストのついた船が行き交い、石炭や醤油樽等を運んでいた。網干水門ができるまでは、大水のとき損保川へ放流した。現在、8月上旬に網干川祭りとして花火大会を開催。



## 善慶寺



明応元年(1492)の開基と伝わる。江戸中期に火災に遭い、本堂は正徳2年(1712)再建。本堂前には、安永10年(1781)の年号と鶴の瓦師の名を刻んだ鬼瓦がある。裏には阿弥陀坐像と並んで、三界萬霊等がある。



## 魚吹八幡神社(津の宮)の 秋季例祭



網干の地名は、津の宮の放生会で、氏子の漁師が殺生を禁断して網を干したことに由来。今ではこの魚吹神社の秋祭りを網干まつりと称し、毎年10月21～22日に近郷25ヶ村が集まり、お旅提灯や檀尻と屋台を出し合う。



## ダイセル異人館(赤屋根)



明治43年、ダイセル化学工業(株)の前身の日本セルロイド人造絹糸(株)の外国人技師の住宅として建設。意匠は19世紀イギリスのコテージに類似、外装等はアメリカのコロニアル・スタイルと共通点が多い。市の都市景観重要建築物等に指定。



## 勝海舟直筆の碑



網干町初代町長・加藤邦太郎の彰功碑が、船渡八幡神社の北に道を隔てて建てられている。この碑の題字が勝海舟の直筆によるもので、勝海舟の部下であった網干出身の赤松則良の労によるものとされる。



## ダイセル異人館(緑壁)



赤屋根のダイセル異人館と同時期に外国人技師の住宅として建設された。住宅としての利用を終えた後は、図書館やクラブハウスとして利用された(現在はセルロイド資料館)。市の都市景観重要建築物等に指定。



## 加藤家



天領の蔵元であった加藤家は、身分は商人でありながら名字帯刀を許された。多くの古文書を遺し、中でも江戸時代の損保川の物産流通の資料は貴重なもので市史編集室に寄託されている。



## 稻香村舎 誠塾



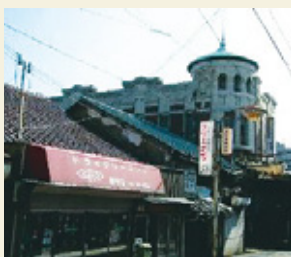
慶応4年(1868)、河野鉄兜の弟・河野東馬が設立。東馬は勤皇の志士で、江戸城開城、新政府樹立に貢献したが、新政府の召出しに応じず網干に帰省。医業の傍、稻香村舎(香邨書屋)を建て、後に誠塾と改名し優秀な人材を育成した。



## 旧網干銀行本店



旧網干銀行は明治27年創業。大正末期に本店を現在地に移転し、煉瓦建て銅板葺きの洋風本館を建築。昭和40年神戸銀行時代に本館は銀行業務を終え、現在は婦人服飾タケダ。市の都市景観重要建築物等に指定。



## 船渡八幡神社(若宮)



余子浜の損保川堤を南へ歩くと船渡八幡神社(通称若宮さん)に至る。ここを神楽岡というのは、神功皇后が御船をこのあたりにつけ、御神楽を奏せられたためと伝わる。また、この地の南から東方へ、堀川と称する数十間の船溜があった。



1 地域夢プランの歩み  
～はじまりから～

2 地域夢プランのかたち  
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとらえ方  
～検証と未来へのアプローチ～  
(1) 「姫路市地域夢プラン」の概要

3 地域夢プランのとらえ方  
～検証と未来へのアプローチ～  
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト  
～地区からの情報発信～  
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト  
～地区からの情報発信～  
(2) 地域資源一覧



-  遺跡・史跡、歴史上の名所
-  神社・仏閣、歴史的建造物
-  歴史上の人物など
-  祭り 伝統行事
-  美術品
-  伝統芸能など
-  景勝
-  生物・花
-  町並み
-  etc その他

0m 500m 1km

## 網干商工会館



大正13年6月に網干商工会が設立され、昭和15年に会館が建設された。当時、約350の商工業者が会員であった。現在は、網干商工同友会として、活動している。



## 西方寺



天文2年(1533)慶雲が開基、盤珪禅師の兄の寿伝上人が中興。



## 池田龍眠句碑(龍門寺境内)



網干出身で荻原井泉水主宰「屠雲」の門人であった俳人故池田龍眠の句碑。句集「日を浴びて」を発刊。この碑は昭和9年建立で、「木の葉ふる 堂の扉を鎖しめる 龍眠」と刻まれている。



## 大覚寺



天福元年(1233)定翁隆禅上人が光接院として開基、後に弘治2年(1556)白鶴の靈験により現在地に移転し、鶴立山大覚寺と称した。国重文の絹本著色の釈迦三尊像(3幅)十六羅漢像(16幅)がある。



## 義徳院



盤珪国師生誕の地。境内に産湯を汲んだ井戸が伝わる。国師の父や兄の医業の道具等が遺る。国師は50回忌の元文5年(1740)に桜町天皇より「大法正眼国師」の号を特賜された。国師の禅は「不生禅」といい、禅の世界で注目を集める。



## 不徹寺



元禄元年(1688)創建。開基は嶺雲貞閑比丘尼(田捨女)。51歳の時に盤珪禅師の徳を慕って帰依した。江戸時代の女流俳人として有名。捨女の3回忌頃に現在地に移転。女坐禅堂があり、誰でも参加できる坐禅会が月に一度ある。



## 京極家 網干陣屋



寛永年代(1624～44)より網干を領有していた京極家は、丸亀に移るにあたり揖保郡の内28ヶ村をそのまま飛地領として領有。代官や奉行等を置き陣屋と称し、年貢の収納など政務を行った。陣屋門(再現)だけが当時の面影を残す。



## 山本家



大正3～7年に施工。土堀越しに見える3階建、黒壁塗りの望楼風の塔はひとときわ高い。外観は通常の和風ではなく、上げ下げ窓や錠戸など洋風の要素をミックスしたもの。市の都市景観重要建築物等に指定。



## 金刀比羅神社



大己貴命ほか数神を祀る。御神燈は天保14年(1843)のもの。水盤に讃岐の地名や船の名や船主名が刻まれている。



## 龍門寺



寛文元年(1661)創建。開基は赤松円心の弟、光則。嘉吉の乱で戦死後、廃寺しかけた龍門寺を盤珪国師が再興。国師の「不生禅」は大名に限らず庶民からも深い信仰を得た。毎年4月に行われる献茶会は直径約50cm超の大茶碗で有名。



1 地域夢プランの歩み  
～はじまりから～

2 地域夢プランのかたち  
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとらえ方  
～検証と未来へのアプローチ～  
(1) 「姫路市地域夢プラン」の概要

3 地域夢プランのとらえ方  
～検証と未来へのアプローチ～  
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト  
～地区からの情報発信～  
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト  
～地区からの情報発信～  
(2) 地域資源一覧



## 稲荷神社(津市場)



拜殿には元治2年(1865)「稲荷神社祭礼図」絵馬が掲げられており、江戸時代に盛大に行われていた火揚げの様子が描かれている。火揚げ(柱松)は、かつて稲荷河原とよんでいた神社西の津市場西公園で戦前まで行われていた。



## 盛徳寺(文覚寺)



応保2年(1162)文覚上人の開基と伝わり、通称・文覚寺。上人没後に廃寺となったが、元禄期(1688～1704)に蒙山祖印禪師が中興し、寺号を盛徳寺と改めた。その後、再び廃寺となるが、明治29年に再中興。



## 魚吹の構



東西約150m、南北約189mの範囲で、扇状の地形を囲むように堀跡と「門の口」「番屋口」などの地名が残る。室町時代中期の「蔗軒日録」に、「播州の英賀、福井の中の津の宮城」とあり、15世紀末には築城されていた。



## 角戸の石仏



鎌倉時代初期のものといわれる3体の石仏。花崗岩の半肉彫り坐像で、いずれも舟形光背をもつ。2体は阿弥陀像で、もう1体は不明。文覚上人を慕ってこの地に来た角戸三郎の菩提を弔うために造られたといわれている。



## 魚吹八幡神社の秋季例祭



10月21・22日に行う。宵宮は竹竿の先に高張提燈をつけた「お旅提燈」の打ち合いや練り合いなどを行う。本宮は境内で獅子舞、楼門前で壇尻芸などが演じられ、「チョーサ」の掛け声で行う屋台練りや、壇尻の綱練りは勇壮。



## 徳寿院



創立年代不詳。真言宗高野山平等院の末寺。もとは魚吹八幡神社の社務を支配する神宮寺として境内の北西に建立されていた。本堂は18世紀前半に建立されたもので、内部に僧形八幡菩薩などを祀っている。



## 魚吹八幡神社の楼門



棟札や瓦銘から、貞享3年(1686)の建立と考えられる。三間一戸の入母屋造で、規模が大きく細部の手法にすぐれている。県指定文化財。



## 船つなぎ岩



神功皇后がこの大岩に船を繋いだと伝わる。神功皇后は伝説上の人物だが、周辺には関係する伝承が多く残る。



## 坂出(さかで)遺跡 (沼・高田遺跡)



かつて沼・高田遺跡とよばれていた遺跡。石器や縄文土器(縄文時代後期)・弥生土器(弥生時代前期)が出土し、竪穴住居が確認されている。現在、遺跡の範囲が北と東に広がるのが判明し、坂出遺跡と呼ばれている。



## 和久遺跡



弥生時代後期～古墳時代初期の集落遺跡。これまでの発掘調査で100棟余りの竪穴住居跡、土坑や溝などが検出。大量の弥生土器も出土。大型の方形住居跡からは銅鏃(どうぞく)や水色をしたガラス製勾玉(まがたま)が出土。



1 地域夢プランの歩み  
～はじまりから～

2 地域夢プランのかたち  
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとりえ方  
～検証と未来へのアプローチ～  
(1) 「姫路市地域夢プラン」の概要

3 地域夢プランのとりえ方  
～検証と未来へのアプローチ～  
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト  
～地区からの情報発信～  
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト  
～地区からの情報発信～  
(2) 地域資源一覧